

## 台湾に日本の桜を咲かせよう 200 本寄贈

NPO「育桜会」など、李登輝氏も大喜び 目標は1万本 花見の名所を

【2003年2月17日付 / 産経新聞朝刊社会面より】

台湾に日本の桜を咲かせよう - 。桜を世界中に広めたい人たちの願いが実り、近く台湾に日本の桜が贈られることになった。専門家も加わって亜熱帯の台湾でも育つ日本の桜を選定。最初の寄贈は200本だが、ゆくゆくは1万本を目指すという。近い将来、台湾にも桜の名所が、と期待されている。

計画を進めているのは、世界各地に日本の桜を広める活動をしている民間非営利団体（NPO）「育桜会」（園田天光光会長）と、計画を知って贈り主に加わった「霞会館」（旧華族会館）、それに台湾との関係も深い歌舞伎俳優の市村萬次郎・潔子夫妻ら。

育桜会の活動を知った市村夫人が園田会長に台湾への寄贈を要請。園田会長も台湾側の熱意を知って計画がスタート。市村夫人はかつて台湾に京劇の勉強のため留学した経験を持ち、台湾の人たちが日本の桜を愛しているのを知っていたため前総統の李登輝氏らに打診したところ、大喜びされたという。

難問は、台湾は亜熱帯に属し、日本の桜が育ちにくいことだったが、財団法人「日本花の会」の専門家らも協力、温暖地に強い品種「河津桜」を選んだ。台湾側も台湾大学の教授らが植樹技術面で協力する。

最初は計200本を寄贈し、台湾大学の農林試験場で慣らしたあと、来年から台北市郊外の新竹市の動植物園に植樹する。来年以降も寄贈、台湾でも増株を続け、合計1万本を目指したいとしている。台湾中部の名勝地、日月潭にも植樹する計画で、台湾各地に日本桜の名所をつくるのが関係者たちの夢だ。

「育桜会」は世界各地に桜の植樹を進める計画を持っているが、台湾が第一号となる。元衆議院議員の園田会長は園田直・元外相（故人）の夫人で中国との交流が深い人でもあるが、桜を寄贈することについて、「桜は政治問題とは関係がない。桜を通じて世界各地の人との交流を深めることが大事」と話している。

台湾の受け入れ側は、「李登輝友の会」と文化交流を進める「好隣居文教基金会」で、19日、台北市で園田会長から受け入れ側代表の李登輝氏に桜の苗木を渡す寄贈式を行う。